

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470400132		
法人名	有限会社 花しょうぶ苑		
事業所名	グループホーム 花しょうぶ苑		
所在地	三重県亀山市本町1丁目2番12号		
自己評価作成日	平成22年10月20日	評価結果市町提出日	平成23年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470400132&SCD=320□□□□
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 22 年 11 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員はいつも明るく地域と共に<和気あいあい>をモットーに日々利用者に関わっている。毎月来苑の介護相談員からも「いつ来ても利用者は生き生きとしており笑い声の絶えない和気あいあいの雰囲気です居心地が良い」との評価をいただいている。施設は幼稚園、小学校、高校が近くにある街中にあり、児童、生徒との交流も開設以来続いている。ご近所の高齢者からは野菜の作り方や苗を分けていただいたりと、子供から高齢者まで地域の人々が気軽に立ち寄り話し合えるサロンのような存在でありたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに商店街、幼稚園、小、中、高校もある。事業所は住宅街の中に位置している。デイサービスと併設し玄関は共用となっている(室内に入り、廊下にアコーディオンカーテンの仕切がある)。食堂兼居間、廊下、浴室等、共用空間および居室は広く採光、換気も良好である。室内の手作りによる装飾、玄関周りの鉢植え等にも見当識への配慮が見られる。管理者はじめ職員は介護経験豊富で、運営者の方針を基に、穏やかで、さりげなく、本人の希望と自立に向けた支援をしている。また、日常、デイサービスとの行き来が出来ることのメリットを活かすと共に、地域の方々との関わりを大切に明るく和気あいあいと楽しく、安心して暮らすための支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が家族との関係を保ちながら地域に根ざしく和気あいあい>と過ごせることを理念としている。また管理者、職員は利用者が明るく元気に生活できるようにケアに取り組んでいる。	管理者及び職員は、地域との関係を大切にしながらホーム独自の理念を共有し実践に繋げている。玄関及びリビングにも掲示し、家族や来訪者にも分かり易く伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方から野菜の作り方を教わったり、出来た野菜をおすそ分けしたり頂いたりしている。また毎年、小学校の児童が季節の鉢植えをもって訪問してくれている。	自治会に準会員として加入しており、地域の方々から野菜の差し入れや、地域の催しへの誘いを受けている。また中学校の体験学習の受け入れ、小学校の児童から鉢植えを頂いたり、管理者が社会科授業で講義をしている事、幼稚園児との交流がある事など地域との関わりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の一日福祉体験を受け入れており体験を通じて、認知症に対する理解を深めてもらっている。また地域の方や利用者の家族から相談を受けることもあり、共に考え話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的実施しているが、自治会役員多忙のため出席が少ないので近隣住民にお願いするようにしている。会議では各々の立場からの意見やアドバイス、情報提供がありサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、地域包括センター職員、家族及び利用者の代表者、事業所役職員で構成、2ヶ月毎に開催して各種報告と建設的な情報交換が行われている。	運営推進会議の目的は、地域の理解と協力を得ながら利用者を支えていくことにある。メンバーに地域住民代表者の参加も望まれる。地域住民への働きかけを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月介護相談員を受け入れ意見交換をしている。また中学生の体験学習なども受け入れ、地域の高齢者福祉サービスの向上に取り組んでいる。	市保健福祉課へは、主に管理者が出かけている(申請の代行その他)。その都度、担当職員に面談し状況報告と情報の入手に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけず、利用者が外に出られると職員がさりげなく付き添い、不満が残らないようにしている。不穏、不眠時に対応を工夫し薬剤に頼らず対応している。会議などでも拘束をしないケアを話合っている。	職員は身体拘束の内容、利用者に対する弊害を良く理解している。職場内外の研修や日常の支援の中で常に確認をし合い、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的にはもちろんのこと言葉の暴力はないか日常的に話している。また会議等で虐待に関する資料を用い話し合い高齢者虐待防止法に関する理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<誰もが住み慣れた地域で、安心して生活できるように>との思いで少ない時間ではあるが、会議の場で話合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や話す機会を何度も持ち、不安や疑問点の解消に努め、契約や解約時にはご家族が納得いくように時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談先を明記した意見箱を設置しホーム入り口に置いている。また、家族の面会時に職員が相談を受けたりしており、「苦情等は苦情受付シート」に記載対応できるようになっている。	職員と利用者・家族とも和やかに話し合える関係にある。職員は家族の来訪時(日常の来訪、室内運動会、食事会等事業所行事)には、何時も要望や苦情、意見の引き出しに努め運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の会話の中でも意見等が言いやすいように心がけている。出された要望などはできる限り受け止め、運営に反映させている。	日頃から運営者はじめ管理者および職員は気楽に意見交換が出来る状況にある。また、毎月の会議でも折々の議題について話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与に過去半年間の勤務態度や実績などを反映させるとともに年1回の給与水準の見直しなどにも反映させ改定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修等には可能な限り交替で参加し、費用面での援助もしている。研修後は朝礼や会議等でも報告しフィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会等が主催する研修会に参加し質の向上に取り組んでおり、近隣のグループホームを訪問したり意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と共に何度も施設を訪問して慣れてもらい安心して利用ができるように努めている。デーサービス利用から入居される方もあり、職員とも顔馴染みで思いを伝えやすい雰囲気を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等から在宅での苦労話などをよく聞き、本人や家族の思いや求めていることを踏まえたうえで、これからの暮らしやケアについて何度も話し合い、家族との関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人や家族に思いや現状を十分に聞き、可能な限り柔軟な対応が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から職員は自分の家族という思いの中で接している。共に泣いたり笑ったり、また利用者に教えてもらうこともたくさんあり、時にはねぎらいの言葉もかけてもらうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には利用者の日々の様子を詳しく伝え、家族と共に喜んだりびっくりしたりしている。外泊や外出時にはケアの仕方を詳しく説明し落ち着いて出かけられるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や外食時に昔の同僚や知人に会い声をかけられることもある。また家に帰り家族と共に過ごしたり、墓参りや親戚の家を訪ねてもらったりしている。	職員は、利用者の生活習慣、能力、地域との関わりを大切にして、一人ひとりの希望に添った支援をしている。また墓参りや親戚、知人宅訪問は家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	勝気な性格の利用者にリーダーシップをとってもらい各々の役割分担ができています。またタッピング・タッチを行なうことで、お互いがケアしあい親しみがわいてきています。職員はつかず離れずの立場で見守り、それとなく話の輪に入ることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設入所後も病院や施設を訪問している。また家族にも様子を尋ねたり相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や日常生活の中で各々の思いや希望などを把握している。また本人の思いが表出困難な場合は日々の生活の中での笑顔や表情などから読み取り心地よく過ごせるように努めている。	本人の生活暦、日常の会話、その日の状態や気分をくみ取り出来るだけ希望や意向に副った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前から本人や家族から今までの生活の様子を聞いているが、日頃の生活の中で、時には家族の知らないことも話されることもあり、家族と共にびっくりすることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者の毎日の生活のリズムを把握しているが、心身の状態が変化することもあるので注意深く見守り状態に応じた過ごし方をしている。また今まで出来なかったことができるようになり、生き活きた表情もみられている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いや家族の希望などを聞き、会議で話し合いながら各々の思いに添えるような介護計画を作成しており、状態の変化に伴い作り直している。	本人・家族の意見を取り入れながら職員全員で検討し利用者一人ひとりに合った介護計画を作成し、家族の承諾も得ている。見直しも毎月のケア会議で話し合い原則3ヶ月、状況の変化時にはその都度行っているが、計画書からは見直し、変化の記録は、あまり明確ではない。	計画が利用者に上手く対応できているか、また、進行する状況の変化に対応するためにもモニタリングを基本(記録も重視して)とした見直しが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録記入のほか、連絡ノート、各種チェック表等に日々の様子や思い、言葉などを記録し職員間で情報を共有している。また利用者が生き生きと暮らせるように、話し合いながら介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方に見える方などの買い物や受診にその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小、中学生の訪問や見学の受け入れや民生委員の見学などで地域の情報をいただいたり、質問を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はホームドクターとして信頼し親しみを持っており、24時間指示を受けられる体制になっており、定期往診以外にも随時往診や総合病院の紹介を受けられるようになっている。	毎月定期的に協力医師の往診を受けていて、緊急時における対策も構築されている。個別の病院にかかる利用者(現在1名)は家族の支援を得ているが、日頃の健康管理には職員は十分気を配り状況を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデーサービスに看護職がおり、協力医などからアドバイスを受けている。また看護師は近くに住んでおり、夜間でも駆けつけ対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が何度も見舞い、家族や病院関係者などから治療経過を聞いたりしている。また退院前には情報を提供してもらい退院後の生活についての相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し事業所が対応できることなどを利用開始時から本人、家族等と話合っている。また状態の変化があるごとに本人や家族と何度も話し合い、安心や納得が得られるようにしている。職員は事業所内外での看取り研修を何度も受け準備に取り組んでいる。	今までに事業所で最期を看取った利用者はないが、重度化した場合は出来るだけ早く本人・家族、医師など関係者とよく相談しながら、ホームとして可能な限り希望に添った支援をしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当などの研修を受けた職員や併設のデーサービスの看護師から救急手当の方法などの訓練を受けたり教わったりしており、急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホームの三重県一斉防災訓練参加や自主避難訓練を行っており、ご近所の方にも参加してもらっている。また地震を感じた時や災害の報道の度に、避難の仕方や避難経路の話をしている。	毎年1回消防署の協力(近隣住民)を得て避難訓練をしている。また事業所独自(含利用者)で夜間を想定した訓練(年1回)をして、問題点を話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導時の配慮や会話に内容、言葉かけ等で誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。また利用者は人生の先輩として、親や身内と思いつつも話している。	職員は、人生の先輩である利用者一人ひとりを尊重し、穏やかな話しかけで寄り添う支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	新聞やテレビの情報からドライブの行く先や食事の献立を決めてもらったりしている。また意思表示の苦手な方には例を挙げて決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で休んだり、片付け物をしたり、その日の体調に応じた過ごし方をしている。家族や知人が訪れ話に花が咲き食事が遅くなる時もあるが本人の思いを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を着られる方もあるが自分で決められない方には職員が寄り添い支援している。また開設時から来てもらっている地域の床屋さんとも仲良く、祖父母と孫のような関係でお気に入りの髪形にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お正月のお節料理をはじめ、季節の物や会話の中で出たものを献立に入れることもある。愛情を注いで育てた無農薬の野菜をみんなで収穫、調理し利用者と一緒に頂いている。食後は各自ができる範囲でできる仕事をしてもらっている。	食事は職員の手作りでメニューも豊富、家庭的である。職員と利用者は同じテーブルを囲み同じものを食べ楽しい雰囲気である。必要な利用者には食事介助している。また、主食はお粥にする等、状態に応じた支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の嗜好や食事量、水分量を把握し多種類の食材を使用するなどバランスを考えた献立にしている。また楽しんで食事できるように幕の内弁当や懐石風にするなど盛り付けも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをしてもらっている。磨き方が不十分な方には声掛けや介助を行い、夜間は義歯を洗い洗浄液につけている。自歯には歯科で歯石を取りチェックしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	家では紙パンツを使用されていた方も排泄パターンを把握し布パンツになったり、日々の動作や様子で便意を察知し、失敗が少なくなるように支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握していて、さりげないトイレ誘導をしながら出来るだけ自立にむけた支援をしている。特に本人の羞恥心に気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便ができるように体操や歩行訓練を毎日行い、繊維質の多い食材は圧力なべを使い食べやすくしている。また水分や乳製品などの摂取や食事量にも配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜はテレビなどを見て過ごしたい方が多く、毎日午後入浴できるようになっている。入浴剤を入れたり、好きな歌を歌ったり、ゆっくりと入浴を楽しんでもらえるようにしている。	お風呂は毎日(午後)沸かしていて、大半の利用者からは毎日ゆったりと利用が出来、喜ばれている。一方、拒絶症の方にも工夫をしながら週2回は入って貰うように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は各々の生活のリズムを把握しており、日中は極力フロアで過ごしてもらい、夜間よく眠れるように支援している。寝つけない方には、眠くなるまでゆったりした態度で接し、薬を使用せずに眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明は職員がいつでも見られるように個別ファイルに入れてある。また症状の変化や薬の変更時は申し送りノートや口頭、ミーティング等を使い確実に伝えるようにしており、協力医や看護職員とも連携が取れるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族から今までの生活の様子を聞き、食事準備や書き物、草取りや菜園の世話などの得意分野で各人の力が発揮でき、気分転換や、意欲の向上にもつながっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日には玄関先でティータイムを楽しみ近所の方たちと話したり、菜園の世話をしたりしている。また希望に沿って季節の花見や地域の行事に出かけたり、外食やドライブインに出かけている。	日常、天気の良い日は玄関先でティータイムや菜園で野菜の手入れ、収穫等をしている。また、時には買物、外食、地域行事へ参加したり、季節毎の花見、足湯等の外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎年の「亀山大市」では小額のお金を渡し、各人で好きな物を買ってもらい、職員はそっと付き添い見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等から誕生日などに小包や手紙が届くとお礼や近況の手紙を書いたり、電話で家族などの声を聞いてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の中央にある天窗から自然で明るい光が差し込むフロアで利用者に過ごしてもらっている。書道作品や行事の写真、みんなで制作した四季の貼り絵を壁に貼り季節が感じられるようにしている。また台所からは料理をしている音や匂いがし、ゆったりくつろげる雰囲気を感じている。	食堂兼居間、廊下も広く採光、換気ともに良好である。居間にはテレビと2ヶ所にソファの設置、壁は利用者の作品や外出時の思い出の写真で装飾されている。また玄関周りの鉢植えにも季節を感じることが出来る。デイサービスとの境界はアコーディオンカーテンであり、双方から自由に行き来が出来、開放的で居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった場所で過ごす事が多いが、好きな時に好きな人と過ごせるようにと、フロアの片隅にソファを置き、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドや家具などを持ち込んでもらい、心地よく過ごせるようにしてもらっている。壁には各人の好みによりそれぞれの作品や家族との写真や手紙などを貼り家族とのつながりが感じられるような工夫をしている。	利用者は各々馴染みの物(テレビ、時計、ベッド、衣装ケースや家族の写真、手紙など)を持ち込み、居心地よく過ごせる工夫をしている。また、どの居室も広く、清掃が行き届き換気も良好である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の入口には表札をかけ、また好みの色で作った折り紙の名札をつけている。居室やフロアで不安に感じられる物はないか会議などで職員と話し合い落ち着いて過ごせるように配慮している。		